

チンコロ

「節季市」の名物といえば、「チンコロ」だ。動物や花など、縁起の良いものや冬にちなんだものを色とりどりの米粉でかたどったもので、雪国では古くから新年の縁起物として大切にされてきた。

「チンコロ」という名前は、おおまかに訳すと「犬」または「子犬」という意味であり、日本の犬種「チン」に由来すると考えられている。実際、犬は最もよく描かれる動物のひとつである。

チンコロの正確な起源は歴史から失われてしまったが、地元の村人たちが雪の降る時期に臨時収入を得るために売買していた数多くの手工芸品のひとつとして、少なくとも 140 年以上前から諏訪町の真冬の市で売られていた。チンコロは、お正月に家に飾る縁起物として人気があった。蒸した米粉が乾くと、チンコロにひび割れが生じるが、ひび割れが多いほどその年の運勢が良くなると言い伝えられている。

かつては、炭火で焼いて餅のように食べていたが、現在は一般的ではない。最近は、より丈夫な樹脂粘土で作られたものは長持ちし、携帯ストラップやアクセサリーとして使えるものもある。